



## 第2回運営指導委員会が行われました。

平成31年1月24日（木）第1回運営指導委員会が行われ、御指導・御助言をいただきました。



【運営指導委員会風景】

### 運営指導委員

上村 靖司 様	長岡技術科学大学教授
吉本 康文 様	新潟工科大学教授
阿部 淑人 様	工業技術総合研究所研究開発センター長
齋藤 浩之 様	新潟県地中熱利用研究会技術委員長
佐々木 彰 様	新潟原動機(株)技術センター主幹技師
伊藤 克佳 様	新潟造船(株)工作部船殻課長

### 管理運営機関

藤澤 健一 様	新潟県教育庁高等学校教育課長
藤澤 満 様	新潟県教育庁高等学校教育課指導第2係指導主事



【ロードヒーティング説明】



【エコハウス説明】



【地下水の温度と外気温を  
測定するデータロガー】

上村靖司様に座長として進行していただき、運営指導委員と管理運営機関から指導助言をいただきました。

### ＜成果が表れている点＞

- ・今年度の課題が“協働”ということで、学科間の連携はできていて、いい刺激になっていて素晴らしい。
- ・建築コースのスキルアップシートの報告で、＜積極的に関わった＞の振り返りが4.47とほぼ満点。生徒が主体的に関わったというエビデンスになっている。一方＜エコハウス建築に満足しているか＞は3.74と、見ようによっては低くなっているが、これは素晴らしい価値があると捉えてほしい。生徒の水準が高いことを表している。まだやれる、もっとやれるということの表れだ。
- ・生徒さんだけでなく先生方もスキルアップしていて素晴らしい。

### ＜改善点＞

- ・学年間での連携の取り組みも考えてみていいのではないか。
- ・外部への情報発信が今ひとつのようなので、SPH通信の他にもお金をかけずに、例えばロードヒーティングのコンクリートのところに制作年月日や学科名を残す等の工夫ができると思う。
- ・数値化しにくい、意欲・態度の部分は、是非今年度の事業報告書の所感で、生徒を目の前にしている先生方の現場感を存分に記載してほしい。
- ・この事業が終了しても、継続できる部分は教材として残るように次年度の計画を立ててほしい。せっかく構築できた外部との連携をなくさないでほしい。また、課題、解決、能力の3つの単語の間に言葉を入れないと高校生にはハードルが高い目標になっているので、もう少し表現を考えた方がいい。
- ・社会人になるとプレゼン能力というのが非常に重要になってくる。自分の意見を相手に伝えるということが非常に重要になってくる。講義の中でもそういったものを取り入れてほしい。